

伝統的社会から現代社会が学ぶべき叢知

●「昨日までの世界 上 ～文明の源流と人類の未来～」

ジャレド・ダイヤモンド/日経 BP マーケティン



600万年におよぶ人類史において、国家が成立し、文字が出現したのは5400年前、狩猟採集社会が農耕社会に移行したのも1万1000年前にすぎない。では、それ以前の「昨日までの世界」で人類は何をしてきたのか。身近なテーマから人類史の壮大な謎を解き明かす。（「BOOK」データベースより）

目次

日本語版への序文 3

プロローグ 空港にて 13

空港での一場面 13

なぜ伝統的社会を研究するのか 22

国家とはそもそも何か 29

伝統的社会の種類 33

研究のアプローチ、要因の説明、伝統的社会の情報源 46

大きなテーマを扱った短い本 53

本書の概略 59

第1部 空間を分割し、舞台を設定する 69

第1章 友人、敵、見知らぬ他人、そして商人 70

境界とは何か 70

相互に排他的な領域 80

なぜ土地の非排他的な利用が起きるのか 87

友人、敵、見知らぬ他人 99

最大かつ最後のファーストコンタクト 110

交易と商人 124

伝統的社会の取引と市場経済 130

伝統的な取引形態 138

伝統的な交易品 144

だれが何を取引するのか 151

小さな国家としての伝統的社会 162

第2部 平和と戦争 165

第2章 子どもの死に対する賠償 166

交通事故と伝統的な紛争解決法 166

謝罪の儀式 171

もしも…… 178

国家の関与 181

ニューギニアにおける賠償プロセス 183

生涯にわたる人間関係 190

その他の非国家社会における紛争解決 195

私的な暴力を辞めさせる国家の権威 207

心からの謝罪を求めない国家の民事司法 212

国家の民事司法の欠陥 222

秩序維持を目的とする国家の刑事司法 232

修復的司法という実験的取り組み 239

利点と代償 246

第3章 小さな戦争についての短い話 257

ダニ族の戦い 257

戦争の辿った経過 261

部族戦争の戦死者数は少ないのか 275

第4章 多くの戦争についての長い話 279

何を戦争と呼ぶか 279

伝統的戦争の情報源 284

伝統的戦争の形態 295

現代国家社会の戦争関連の死亡率は低い 300

類似点と相違点 305

戦争状態の終結 319

ヨーロッパ人との接触による影響 325

好戦的な動物と平和的な民族 335

伝統的戦争の動機 342

戦争の究極の要因とは何か 348

対戦相手はだれか 356

パールハーバーを忘れる 364

第3部 子どもと高齢者 373

第5章 子育て 374

伝統的社会の子育てから何が学べるか 374

理想的な出産 380

嬰兒殺しを容認する社会 383

離乳と出産の間隔 387

ほしがらるたびに授乳する 391

乳幼児と大人の触れ合い 394

父親と親代わりの大人 400

泣く子どもへの対応 409

体罰をする社会、しない社会 414

子どもの自律性 422

異年齢の遊び集団 430

子どもの遊びと教育 435

小規模社会の子どもと国家社会の子ども 443

第6章 高齢者への対応—敬うか、遺棄するか、殺すか？ 449

高齢者は社会のお荷物か 449

何が高齢者介護に期待されているのか 454

なぜ親を遺棄したり殺したりするのか 457

高齢者の利用価値と役割 464

社会の価値観 471

高齢者に有利な社会規範 484

高齢者への対応は改善したか、悪化したか 492

高齢者への対応はどうあるべきか 502

第2部 平和と戦争 165

第2章 子どもの死に対する賠償 166

交通事故と伝統的な紛争解決法 166

パプアニューギニアの道で、マロという男が運転する車にビリーという児童が撥ねられた。会社の従業員たちを自宅まで送っていく途中だった。ビリーはミニバスの後方から飛び出して、道を横切ろうとした瞬間、マロの車のボンネットに頭を強打され、空中高く跳ね上げられてしまった。パプアニューギニアでは、交通事故を起こした運転手は、現場にとどまらず、そのまま運転しつづけ、最寄りの警察に向かうようにすることが法律で認められている。事故の現場にいあわせた人々が事故の加害者に怒りの矛先を向けることがよくあるからである。マロは、そのまま地元の警察に直行し、そこで自首したのである。同乗者たちの身柄を一時的に拘束し、彼らの身の安全をはかった。そして、マロに対しては、彼の身の安全を確保するという理由で警護し、村まで送り届けたのである。マロはその後、数カ月間、自分の村の外に出ることができなかった。この事故には、悪条件が重なっていた。事故の加害者マロと被害者ビリーが異なる部族集団に属していたのである。事故の発生を機にふたつの部族の関係が険悪になりえることを意味していた。伝統的な社会のなかには、人々が国家政府の正当な司法制度の枠外で実質的に生活している社会が多々ある。ニューギニアもその一例であるが、そのような社会では人々が国家政府の司法制度の助けを借りずに独自の伝統的方法で正義をおこない諍いを平和裡に解決している。5400年前に国家という政治的共同体が形成され、成文法が制定されて、裁判所、裁判官、警察というものが制度や組織として整備され、紛争解決の役割をになう存在となり得る前の紛争解決法である。平和的な問題解決には「賠償」がつきものである。

謝罪の儀式 171

マロの会社の支店長ギデオンは、ニューギニア式の賠償交渉に関わった経験のあるヤギーンに相談し交渉のまとめ役になってもらった。賠償の儀式は事故から5日目に正式な手順にのっとり執りおこなわれた。その儀式は、ギデオンとヤギーン以下、マロを除く会社の全社員が参加した。儀式の場では、ビリー少年のおじが最初に話し、弔問客に謝意を述べ、ビリー少年の死がどれほどの悲しみをもたらしたかを語った。つづいて、ギデオンとヤギーン、他の社員が席を立ち、順番に哀悼の意を表した。「次にビリーの父親が話しました。涙に暮れながら、ビリーの死は事故だった。会社の人間の不注意によるものではなかったといってくれました。彼の仲間たちが問題を起こすことはない、といってくれました。そしてビリーについて語りました。ビリーのおじさんたちが『われわれが問題を起こすことはない。あなたがたの対応にも、賠償にもわれわれは満足している』と重ねて繰り返してくれました。」

心からの謝罪を求めない国家の民事司法 212

国家社会の司法は民事と刑事にわかれる。アメリカの場合、国家の法律に反した人の刑罰の関係を規律するのが刑法であり、被害の弁償の関係を規律するのが民法である。非国家社会にも、個人間の行動の関係を規律する社会規範は存在するが、刑事と民事の事案の境界線がはっきりしていない。正式に定められた政治的共同体の制度と体制である国家に対する犯罪の関係を規律する法律体系が、成文法として存在しないからである。民事紛争について、国家システムと非国家システムの双方に共通することは、第三者が間に入り、当事者間の距離を離すことによって冷却期間を設け、双方の高ぶった感情が沈静化するようにしむけることである。仲介役はその道で経験を積んだ人間、たとえば、ニューギニアでの事案であれば、ヤギーンのような人間が務める。国家社会での事案であれば弁護士が務めるが、弁護士以外にも仲裁人、調停人、保険損害査定人といった人たちが当事者間の間に入って、両者のあいだを取り持つこともある。第三者を介した交渉によって当事者双方が合意できる解決策をみいだせない場合にのみ、双方の合意が必要とされない方法によって紛争の解決が試みられる。非国家社会であれば暴力沙汰や戦争であり、国家社会であれば仲裁調停や裁判での決着ということになる。

第4章 多くの戦争についての長い話 279

戦争状態の終結 319

戦争はいかに収束し、いかに終結し、平和はいかに保たれるのだろうか。この違いも、伝統的戦争と国家戦争の最大の相違点のひとつである。小規模社会の戦争においては報復殺人の悪循環によって生起することが多い。A側の人間がひとり、B側の人間によって殺された。A側は、B側のだれかひとりを殺して復讐をはたさなければならない。A側がその復讐をはたすと、今度はB側が、A側に対して復讐をはたさなければならない、という循環である。この循環は、A側かB側のいずれか一方が全滅させられるか、完全に追い払われるかするまでつづく。あるいは、A側もB側ともに疲弊し、戦死傷者が続出し、これ以上戦っても敵方を全滅あるいは追放できないという結論に双方が達するまでつづく。国家戦争の終戦に際しては、小規模血縁集団や部族社会のあいだの戦いよりも、戦いで目指す達成目標がより限定的である。最

大限の戦争目的といえども、敵側の全領土の征服にすぎない。戦争を収束させ、終結させるにはまず、終戦にするか否かを決定しなければならない。敵側との休戦交渉に臨むか否かを決定しなければならない。そして、この決定を下すことに関しても、部族社会と国家（および中央集権化した大規模な首長制社会）は同じではなく、部族社会の方がより大変なのである—国家は中央集権化されており、意思統一をすることができる。だれをもって交渉にあたるかも決めることができる。しかし、部族社会には、集権化された指導者がおらず、だれもが一言居士になってしまう。かりに停戦交渉が成功したとしても、その後の平和維持が部族社会では大変である。どのような社会にも、和平合意に不満を抱く者はいる。そういった不満分子は、個人的な理由で敵を攻撃したが、新たに戦闘を開始したがるのである。国家社会では政府にのみ武力行使権があるため、不満分子がいたとしても、その権限と権力の行使をもって不満分子の跳ね上がりを抑えつけることができる。部族社会の指導者には、不満分子の跳ね上がりを抑えつけることはできない。それをするには彼の権限はあまりにも弱すぎる。だからこそ部族社会においては、停戦後の平和が脆弱であり、持続的な平和構築ができず、すぐさま戦争の悪循環が繰り返される。国家社会と小規模社会のあいだにみられる、戦争の悪循環が繰り返される社会であるのか、繰り返されない社会であるのか、この違いこそが、かりにも国家が存在するにいたった主たる理由なのである。ニューギニア高地のアウヤナ族の男性たちから次のような話をきかされた。「政府がここにきてから、私たちの暮らしはよくなりました。いまでは肩越しに背後を警戒することなく食事ができます。朝は朝でだれかに射られるのではないかとビクビクすることなく、外の便所で用を足すことができます。男たちはみんないっています。戦うのはほんとうに恐かったと」。オーストラリア政府密林警邏隊と現地警察がほんのわずかな人数で、パプアニューギニアの部族のあいだで長年つづけられてきた暴力紛争をいとも簡単に終結できたという。彼らはまず、交戦中の集落のひとつを訪れ、部族民から豚を一匹購入し、それを射殺して、銃の威力を村人たちにみせつけたのである。そして、村の防御柵を引き倒し、戦闘用の大盾、小盾、すべての盾を部族民から没収し、彼らを完全無防備にしてしまい、戦闘をしかけたりすれば、みずから墓穴を掘る状態に彼らをおいたのである。自分たちに刃向かい、攻撃を仕掛けてきた部族民をときおり射殺した。彼らが暴力紛争を終わらせるためにしたのは、たったのこれだけである。国家政府を持たなかったニューギニア人たちは、部族間の平和をみずからの手では実現できなかったが、植民地政府は平和をもたらし、その維持を約束したので、彼らは植民地政府のメリットを高く評価したのである。

第5部 子どもと高齢者 373

第5章 子育て 374

離乳と出産の間隔 387

20 世紀のアメリカの全般的傾向として、母乳育児の割合は減少傾向にあり、そうした子どもたちの離乳時期も早くなっている。1970 年代には、生後6カ月で母乳を飲んでいる乳幼児の割合は、同月齢児のわずか5パーセントにまで低下している。これと対照的なのが、狩猟採集民のあいだの数字、なかでも、農耕民とまったく接触がない狩猟採集民のあいだの数字である。彼らには、牛乳もなければ、粉ミルクもない。農作物の入手が不可能であるため、離乳食になるような食材もない社会で暮らしており、乳幼児に与えることのできる栄養価の高い食べ物は母親の母乳以外にないのである。7つの狩猟採集社会でみると、平均的な離乳時期は約3歳である。幼児が咀嚼できるようになり、自分で必要な栄養分を摂取できるようになる年齢である。幼児が完全に離乳する時期は、母親がつぎの子を妊娠する時期と重なる傾向にある。授乳期間と出産の間隔は、移動性の狩猟採集社会では2年半から4年というのが平均的な数字である。定住性の農耕社会や、農耕民と取引をする狩猟採集社会では、平均が2年にまで短縮される。農耕民は、幼児に離乳食として家畜の乳や穀物の粥を与えられるからである。移動性の狩猟採集民の社会で、出産間隔が長い要因は、母乳量が不足するという問題と、移動に関わる制約である。牛乳や穀物の粥がない狩猟採集民の社会では3歳ごろまで授乳がつづくので、その間に妊娠しても、両方の子どもを満足させるだけの母乳が出ない。母乳不足で餓死する可能性が高いのである。狩猟採集民の母親は、野営地から野営地へ移動しなければならないが、子どもは4歳前後になるまで大人たちについていける速さで歩けない。そのため、母親が抱いていくことになるが、体重90ポンド（約40キログラム）のクン族の女性にとっては、15ポンドから40ポンド（約7から18キログラム）の野草類と数ポンドの飲料水、身の回りのものを運びながらの移動を考えると幼児はひとりしか抱けず、長子が大人の足手まといにならずにひとりで歩けるようになるまでの期間は妊娠できないのである。移動性の狩猟採集民の社会では、授乳の期間が長く乳幼児の離乳年齢が高いため、母親が物理的にも心理的にも、より多くのエネルギーをひとりの子どもの傾注でき、子育てできる。出産の間隔が長いクン族の子どもは数年間にわたり母親の愛情を独占することができ、幼少期に母親と近い関係が築けるため、幼少期における情緒が安定しており、結果として成人後の情緒面での安定により影響をおよぼしている、という観察調査結果も存在する。離乳をどのように進めるかについては、社会ごとに違いがみられる。ボフィ・ピグミー族やアカ・ピグミー族のあいだでは、徐々に離乳させるた

め、子どものかんしゃくもあまりみられない。また、離乳を開始するタイミングも、母親でなく子どもが主導権を握り、子どもの成長に合わせて自然に決まっている場合が多い。

乳幼児と大人の触れ合い 394

現代の西洋工業化社会における、大人（おもに母親）と赤ん坊の時間の過ごしかたは、赤ん坊と母親がいつも一緒にくっついていない。西洋の国家社会においては、母親（やだれか別の大人）が、ときどき赤ん坊を抱え、食事を与えたり、一緒に遊んだりするが、母親と赤ん坊がつねに行動をともにするわけではない。赤ん坊はふつう、日中はゆりかごやベビーサークルのなかで、ひとりで眠ることが多い。しかし人間は、人類史の大半を通じて、先祖である類人猿や猿のパターンを踏襲してきており、このパターンが変わったのは、直近の数千年の話ではないかと思われる。現代の狩猟採集民の生活を観察し調査した結果もまた、日中の赤ん坊が、母親にずっと抱かれているか、別のだれかに抱かれているかのいずれかであることを示している。クン族の母親は赤ん坊をベビースリングと一緒に連れて移動する。ニューギニア人の母親は赤ん坊を網製のキャリーバッグに入れて移動する。北米の先住民の母親は、赤ん坊をゆりかご板にすっぽりおさめ、一緒に移動する、といったぐあいである。赤ん坊は、ふつうは同じベッドやマットの上で隣り合わせで眠るが、これは高等霊長類の母親と赤ん坊の関係においてみられる特徴と同じである。90 の伝統的社会を調査し、その文化を比較研究した結果をみるかぎり、母親と赤ん坊が同じ場所で寝ていない例はひとつとしてみつかっていない。現在、西洋社会で実践されている、母親と赤ん坊が別の場所で寝る習慣は、最近になって発明された方法であり、しかも、この方法のせいで西洋人の親たちは子どもの寝かしつけに苦勞させられている。アメリカでは、小児科医の推奨によって、両親と赤ん坊が同じベッドで寝てはいけなさとされている。親の寝返りで赤ん坊を押しつぶしたり、親の体温の影響で赤ん坊の体温が上昇したりする危険があるという理由である。人類の歴史をみると、ほんの数千年前までは、ほとんどすべての赤ん坊が実質的に母親と一緒に、そして普通は父親とも一緒に同じ場所で寝ていたのである。そして、現代アメリカの小児科医たちが恐れるような悲惨な結果も、幅広く報告されているわけではない。これはおそらく、寝床の固さに関係があるのではないかとおもわれる。狩猟採集民の寝床は、固い地べたの上か、固いマットの上である。現代人のわれわれのベッドはやわらかい。そして、やわらかいベッドの上では、寝返りした親が、赤ん坊に覆いかぶさってしまう可能性が高まるきらいがある。クン族の赤ん坊は、生後 1 年間の 90 パーセントを、母親やその他の介護者とのスキンシップに費やしている。クン族の母親はどこにいくにも子どもを抱えている。母親が抱けないあいだは、だれか他の大人が子どもを抱っこする。クン族の子どもは、生後 1 歳半ほどになると、頻繁に母親のもとを離れるようになるが、それも他の子どもと遊びたいがための行動であって、親離れのタイミングも、子どもが主導権を握り、自然に決まることが多い。

父親と親代わりの大人 400

ニューギニア高地人やアフリカのバンツー系民族の社会では、父親が子どもの養育に関わる傾向が少ない。男は戦士として戦うものであり、攻撃的なほかの男性から家族を守ることこそが男の仕事であると思われるからである。ニューギニア高地では、男性は 6 歳以上になると、男の家に集まり、父親と息子もそこで集団生活を送る集団が多い。また、女性は女性だけで暮らし、娘や若い息子たちも、そこで母親と一緒に暮らす。「アロペアレンティング」と呼ばれる、生物学的な親以外の人間が子どもの世話をやいたり、面倒をみたりするスタイルは、ここ数十年、減少傾向にある。伝統的社会におけるアロペアレンティングは、赤ん坊が生まれて 1 時間も経たないうちにはじまる。アカ・ピグミー族やエフェ・ピグミー族は、生まれたばかりの赤ん坊が、焚き火の周りでぐるぐると人のあいだを手渡しで回される。狩猟採集民のあいだでは、赤ん坊の世話が共同作業になっていて、母親と父親や親代わりの大人とが育児を分担している。狩猟採集社会では、父母と一緒に、乳幼児が食料の調達に同行することはあまりない。赤ん坊や幼児は祖父母と一緒に野営地に残り、父母が心おきなく食料探しに専念できるようにするのである。東アフリカのハツァ族では、祖母が養育に関与している子どものほうが体重増加ペースが速い。おばやおじがアロペアレンティングに関与し、重要な役割をはたしている伝統的社会も多い。また、兄弟姉妹が長じて成人し、子どもをもうけたあと、互いの子どもの世話をしあう習慣は狩猟採集社会の多くでみられる。小規模社会では、子どもの養育に親以外の人々が関与し、子育ての責任を社会で広く分担している。これが子育てにみられる小規模社会と大規模な国家社会の大きな違いである。小規模社会のアロペアレンティングは、現代の工業化社会においても、有効なメリットをもたらす得る。複数世代の既婚者が同居する大家族のなかで育つ子どもは、自分の親以外にも自分の養育に関与してくれる人がおり、その人たちとの交流を通じて得るものが大きい。アメリカのソーシャルワーカーたちの指摘で、母親としての経験不足や育児放棄が疑われる低所得の 10 代の未婚女性の子育てにおいても、祖母や年長の兄弟と一緒に暮らす大家族の一員として同居できる環境が存在すると、赤ん坊の発育が早まり、認知能力の発達もみられる。

高齢者の利用価値と役割 464

伝統的社会において高齢者は、いかなるサービスを提供できるのだろうか。適応主義の観点からいえば、高齢者が有用でありつづけられる社会は、高齢者の面倒をみるのが社会の繁栄につながる傾向にある。高齢者が提供できるサービスには2種類ある。ひとつは、若い世代が提供できる種類のサービスであり、かつ、高齢者がまだまだ提供できる種類のサービスである。もうひとつの種類は、熟達に長年の経験が必要とされる種類のサービスであり、特に高齢者に適している種類のサービスである。狩猟採集社会では、人はいずれ老人となり、男性であれば槍でライオンを仕留められなくなる。女性であれば、老女となって、重い荷物を持っての徒歩ができなくなって、モンゴンゴの実の採集に行けなくなる。それでも、高齢者が食料を獲得しつづける方法はある。アチェ族の男性は60代の高齢になっても、社会サービスを提供し続ける。小動物に特化した狩りをしたり、果物やヤシのさまざまな部位を採集したりして、食料の採集に協力する。クン族の男性は高齢になっても、動物を罠でつかまえたり、植物を採集したりしては、食料の足しにする。若い男性たちの狩りに同行しては動物の足跡を読んで、足跡の主の見当のつけかたを教えたり、狩りの戦略の相談に乗ったりする。タンザニアの狩猟採集民ハヅァ族の女性のなかでもっともよく働く年齢集団は閉経後の祖母たちである。彼女らは、1日平均7時間働く。1日中、根菜類やベリー類、ハチミツ、果物を採集して歩くのである。子どもはいなくても、腹を空かせて待っている孫たちがいるからである。彼女らが食料採集に費やす時間が多ければ多いほど、孫の体重増加が早まるのである。高齢者がもっと高齢になって、1日7時間、根菜掘りができなくなったら何ができるのだろうか。それは、子守りである。祖父母が孫の子守りをすれば、子ども夫婦は育児の心配をすることなく、食料探しに専心できる。クン族では祖父母が孫の世話を、数日間連続で引き受けるようなこともよくある。その間、子ども夫婦は、泊りがけで狩猟採集に出かけることができるのである。高齢者は物づくりのサービスを提供することもできる。成人した子どものために道具、武器、かご、織物といったものをつくってやることもできる。サービス分野のなかには、齢を重ねた人のほうが、よりよいサービスを提供できる分野もある。医療サービス、宗教サービス、娯楽サービス、人間関係の相談、政治的貢献といった分野のサービスである。伝統的社会では、助産師や呪医が高齢であることが多い。伝統的社会で生きる高齢者がはたせるもっとも重要な役割は何か。文字がある社会では、情報が文字化されていたり、デジタル化されたりして伝達される。百科事典、書籍、雑誌、地図、日記、メモ、手紙、そして現在ではインターネットのようなものが情報伝達の手段となり得るのである。ゆえにわれわれは、そのような情報伝達の手段を利用して事実確認や調べ物ができる。文字体系のない社会では、すべてが人間の記憶頼りとなる。そのような社会では、高齢者は社会の生き字引なのである。人々の親戚関係、いつだれがだれに何をしたかについて知っているのも、地元の何百種類もの動植物の名前と性質と利用法、生存環境が悪化したときにどこで食料をみつけたらよいかということについて知っているのも高齢者である。だからこそ、伝統社会の人々にとって、高齢者の介助は死活問題だったのである。このように、高齢者は、部族の生き残りにかかわる非常に重要な記憶を有しており、同様のエピソードは、文字を持たない社会において枚挙にいとまがない。

◎次号2024年(令和6年)夏号に掲載予定◎

●「昨日までの世界 下 ~文明の源流と人類の未来~」

ジャレド・ダイヤモンド/日経 BP マーケティン



現代西洋社会の特徴はインターネット、飛行機、携帯電話といった技術や、中央政府、司法、警察といった制度ばかりではない。肥満、座りっぱなしの働き方、豊かな食生活から生まれる疾病や、社会が豊かになったことによる宗教の役割の変化もまた、現代西洋社会の特徴なのである。現代西洋社会に住む私たちが伝統的社会から学ぶべき人類の叡知を紹介する。(「BOOK」データベースより)

目次

第4部 危険とそれに対する反応 11

第7章 有益な妄想 12

第8章 ライオンその他の危険 80

第5部 宗教、言語、健康 169

第9章 デンキウナギが教える宗教の発展 170

第10章 多くの言語を話す 264

第11章 塩、砂糖、肥満、怠惰 349

エピローグ 別の空港にて 427

謝辞

訳者あとがき

文庫化によせて

『世界のともだち ロシア』 35

“セミョーン 北の国の夏休み”

文・写真・安井草平/偕成社



セミョーン
北の国の
夏休み

ロシア



安井草平

世界でいちばん大きな国、ロシアの東のはしにある、ウラジオストクにセミョーン（11才）は住んでいます。セミョーンの家族は4人。お父さんは家できびしく、とても頼りになる大黒柱です。お母さんは、友だちみたいになんでも話せる、やさしいひとです。セミョーンは、あまり人見知りをせず、なんにでも積極的にチャレンジする男の子。ちょっぴり目立ちたがり、クラスの女の子たちに人気があるようです。セミョーンの家は、大きな集合住宅です。冬の寒さがきびしいロシアですが、建物全体をあたためる「セントラル・ヒーティング」によって、室内はいつもあたたかく、外がマイナス20℃の極寒でも、半そでに短パンですごすことができます。ロシアがソビエト社会主義共和国連邦（ソ連）だったころ、巨大な集合住宅が沢山建てられ、すべての人びとに住居がわけあたえられていました。そのため、いまでも街なかで一軒家を見かけることはあまりありません。ウラジオストクは、日本海に面した「沿海地方」とよばれる地域にあります。成田空港からは飛行機でたったの2時間半です。軍港都市としての歴史が長く、1991年にソ連がなくなるまでは「閉鎖都市」とされ、外国人は立ち入ることができませんでした。ロシアの義務教育は、全部で9年間あります。セミョーンの通う学校は「17番」。ロシアでは、学校を数字で呼びます。1回45分の授業が6時限まであり、給食はありません。セミョーンはいつも、家に帰ってからご飯を食べます。夏休みは6月に始まり、約3か月あります。キャンプに行き、自然の中でのびのびと過ごすのが一般的。お父さんは毎年サバイバル教室を開いていて、セミョーンも3週間のキャンプ生活を体験しました。長いキャンプ生活が終わると、まちにまったダーチャでの生活が始まります。「ダーチャ」とはソ連時代、住居と同じく政府が各家庭にあたえた簡素なつくりの別荘です。一家は、8年前に海辺にダーチャを建てました。自然豊かな土地に、お父さんがほとんどひとりで建てたそうです。一家にとってここは、休暇や祝日を過ごす特別な場所。庭では、沢山の野菜を育てています。以前、ロシアでは、お店に行っても食料品が売られていない時期がありました。そんな苦しい状況でも、人びとは自分たちで野菜を育てることで、なんとかくらしていたのです。今ではスーパーでなんでも買えますが、むかしからの習慣で家庭菜園をつづけている人はとてもたくさんいます。ロシアの短い夏が終わると、新学期が始まって、学年もまたひとつ上がります。近いようで意外と知らないロシアのお友達の楽しい日常が描かれています。（要約：K.M.）

『世界のともだち ウズベキスタン』 36

“シルクロードの少年 サブトラ”

写真・文 百々新/偕成社

ウズベキスタン



シルクロードの
少年 サブトラ

百々新

中央アジアのどまんなか。ブルータイルでいどころれたシルクロードの古都、サマルカンドに11才のサブトラはくらしています。サブトラは5人家族。サマルカンドのレジスタン広場の裏、旧市街で生活しています。お父さんは電気会社のエンジニア。お母さんは、フランス語と英語を話し、レジスタン広場でガイドをしています。サブトラは数学がとくいで、勉強熱心。学校の成績はいつも満点だそうです。力が強くて、習い事をたくさんやっていることもあり、学校ではみんなから尊敬されているタイプ。将来は、お母さんのように、レジスタン広場で日本語と英語のガイドをしたいと考えているそうです。青いタイルでおおわれた、イスラム教のたてものがならぶレジスタン広場。世界中から観光客が訪れます。サブトラのおばあさんは、歴史あるこの広場のなかで、おみやげ屋さんを営んでいます。サブトラも土曜日の午後には親せきのおばさんといっしょに、おみやげ屋さんのお手伝い。お客さんに上手に商品をすすめます。学校へ行く朝は、6時に起きます。学校まではバスで25分。イスラム教のならわしで、バスでは女性が前の方、男性がうしろの方に座ります。朝のバスはいつも混みあいますが、女性や小さい子ども、お年よりには、男性や若い人が率先して席をゆずります。ウズベキスタンでは義務教育は12年間です。学校は午前と午後の2部に分かれています。サブトラは、朝8時から午後1時に授業がある午前の部です。国語、ロシア語、英語の語学の授業時間がたくさんあり、宿題は毎日すべての科目ですこしずつでるそうです。サブトラの得意な科目は数学ですが、将来は、きれいな国、というイメージのあるフランスや日本に行ってみたいと思っていて、そのためにも、語学の授業をがんばって勉強しています。授業にはない日本語もなっています。ウズベキスタンの人たちの多くは、もともと移動しながら生活をする遊牧民でした。その影響か、羊や山羊の肉を好んで食べます。大陸の真ん中にある国なので、ロシア、中国、ペルシアからの料理など、さまざまなものを美味しく食べられます。サマルカンドは、「青の都」「シルクロードのオアシス都市」「中央アジアの交差点」などとよばれる、美しい都市です。シルクロードという、中国からローマへ続いた道の中心地で、古来から人々が行きかい、いろいろなものや文化が往来した場所です。イスラム教の学校やモスク、巡礼者の宿がたてられ、イスラム世界の宝石ともよばれています。いまでは、街全体が世界遺産に登録され、世界中から人々がおとずれます。サブトラの日常を通して、サマルカンドの美しい街並みをぜひのぞいてみてください。（要約：K.M.）「世界のともだち」全36巻は今回を持ちまして終了です

○次号2024年夏号掲載予定：(特集)村上春樹「職業としての小説家」(連載)塩野七生「ローマ人の物語」/

渡部昇一「日本の歴史」(続き)高山文彦「宿命の子」/日本百名山ほか2023年度中学校受験体験記など

□東條英機 歴史の証言 ～「2キ3スケ」の一人、星野直樹の戦犯から釈放、そして恩返し～

企画院というのは、世界情勢の緊迫化に伴ない、日本経済の非常時に備えるためには、国家社会主義的な政策が必要であるとの認識の上に、昭和 12 年(1937 年)に第一次近衛内閣によって設立され、国家総動員計画の設定、遂行についての各省庁の調整統一をその職務としました。つまり戦時経済参謀本部のような機関であったわけです。ここを革新官僚や軍の中堅将校が拠点として統制経済体制を作り上げました。第二次近衛内閣における企画院総裁は、大蔵省出身の新官僚であった星野直樹です。彼は大蔵省から満州に転出して国务院総務長官になり、いわゆる「2キ 3 スケ」(東條英機、星野直樹、鮎川義介、松岡洋右、岸信介)の一人として、満州国の経済・財政に腕を振るった人物です。(『東條英機歴史の証言 東京裁判宣誓供述書を読みとく』 渡部昇一/祥伝社 P83～84)

■星野直樹(1892 年(明治 25 年)4 月 10 日 - 1978 年(昭和 53 年)5 月 29 日)は、大東亜戦争開戦時 1940 年 7 月 22 日 - 1941 年 4 月 4 日において、企画院総裁を務めており、また大東亜戦争時の内閣書記官長を務めておりました。■企画院は、日本における戦前期の内閣直属の物資動員・重要政策の企画立案機関、また内閣書記官長は、現在の官房長官に近い役職であり、戦前の官僚機構のトップに位置しておりました。星野直樹は、それぞれのトップに就任していたこともあり、近衛内閣から東条内閣においての間違ひなく国家を動かすキーマンの 1 人でありました。■一方で、あまり知られておりませんが、その星野直樹は、開戦が間近に迫る中、総力戦研究所の初代所長にも就任しました。総力戦研究所は、内閣総理大臣直轄の研究所であり、設立の 1 つに日米戦争が起きた場合、日本はどのようなシナリオが待ち受けるのか、そのシミュレーションを行う機関でもありました。参加者は、陸海軍、各官庁や民間人の、特にしがらみや固定観念の少ない 30 代の若いトップエリート層が中心でした。室内に缶詰め状態で模擬内閣、議論、シミュレーションを行います、出てきた結果は、「日本必負」。「どうやっても日本は負ける」との答えでした。そのシミュレーション内容は、原爆が落とされた以外は、ソ連の対日参戦などほぼ全てを当てていたと言われております。つまり星野直樹は、開戦前後の重要な役職に就いていた一方で、開戦した場合、「日本必負」をいやでも感じていたと思われます。■終戦後、星野直樹は、A 級戦犯として極東国際軍事裁判で終身刑を宣告されます。開戦前後のキーマンでありながら総力戦研究所所長として、戦争必負とわかっていた星野直樹としては、生き延びたいという気持ちが強かったのではないのでしょうか。■星野直樹は、何とかして終身刑を解かれる方法を探します。極東軍事裁判の弁護人ウイリアム・ローガンをはじめとする弁護団に相談したところ、「裁判関係者らに賄賂を渡すしかない」という答えでした。であればお金のありそうな三菱や三井といった財閥が候補となりますが、戦時の政府からの受注代金未回収もあり、そんなところではありませんでした。そこで頼ったのが、当時小財閥であった東急グループの総帥である五島慶太でした。ただ東急でもそんな潤沢なお金はなく、弁護人ウイリアム・ローガンらの助言もあり、五島美術館に山ほど眠っていた横山大観の富士の絵を密かに差し出そうとのことでした。案の定、思惑通りこのプレゼントに、裁判関係者らは喜び、後に A 級戦犯リストから外されました。実は同じ要領で、東条内閣時の大蔵大臣を務めた賀屋興宣も戦犯リストから外されました。星野直樹は、「五島慶太さんには、足を向けて寝られない。生きて巣鴨を出たら東急グループへの支援を惜しまない」という決意をしました。■星野直樹は 1978 年 86 歳で亡くなりましたが、戦後の人生、東急電鉄の取締役役に就任し、東急グループへの惜しみない支援や、ダイヤモンド社の会長(代表取締役)など経済界で活躍され、日本の復興と発展に尽力されました。

【引用文献】新井喜美夫「転進瀬島龍三の『遺言』」講談社//猪瀬直樹「昭和 16 年夏の敗戦」中公文庫

●日本の歴史を知る朗読会参加者 HIROKAZU さんからの VOICE ■

□『戦争犯罪国はアメリカだった 英国人ジャーナリストが明かす東京裁判の虚妄』

ヘンリー・S・ストークス/ハート出版



歴史を捉え直したい、とこの朗読会に参加しました。ただテキストを読み進むには人名や日常馴染みのない漢字を調べないといけません。手間はありますがその中にふとした気づきがある時がとても楽しいです。頭の中の点と点が繋がる瞬間や視点が変わって今まで居た場所から自由に飛び出して空中から元の場所を視る瞬間。そう、グーグルアースのような感じです。

■朗読会の参考にと英国人ジャーナリスト、ヘンリー・ストークスさんの「戦争犯罪国はアメリカだった」をご紹介頂きました。著者は英米新聞社の東京支局長として活躍され長年日本に暮らされました。タイトルが煽情的で中々手にとりづらい感はありますが、私は著者に背中をバーンと叩かれたような気がしました。著者は私達に「日本人は自分の国の独自性を知り、日本が重んじてきた精神性を大切にして誇りを持って生きて欲しい。」と熱いエールを送っています。また「ある意味、戦後の自虐史的歴史観は他国によって意図的に作られた事に気付いて欲しい。」と述べています。そして「東京裁判は裁判として成すには前提から間違っており戦勝国側の論理でごり押しされたもので、この裁判こそ戦争犯罪である。」とも述べ、日本人はそれを見過ごしてはいけなと主張しています。世界史を見ればキリスト教と結びついた白人至上主義が過去 500 年に渡り世界の広範囲に他国を侵略し植民地化してきた事実、そして彼らが人種差別的倫理観で民への抑圧を続け、自国の利益を長年得てき

<<東條英機～余波～>>

たという事実もつきつけます。一方、日本は一貫して天皇が「国体」として存在し、長い歴史の中で培われた独自の倫理観と精神性がベースにあります。開国からわずかの間に先人達が猛烈な勢いで西欧諸国の知識を吸収し対外的力を増強した事実は驚くべきことだ、とこの本を読んで更に考えが深まりました。支配層の西洋人には既得権益であったアジア植民地に今まで被支配層と考えていたアジア人の日本人が進出し、彼らを時に凌駕するほどの力を持った事は 500 年の白人優位の世界観を打ち壊す出来事であったのです。著者は友人だった三島由紀夫さんの自決に促されこの本を書かれたように感じます。今まで解っていなかった戦後の日本の在り方を知るために、引き続き学んでいきたいです。■この本には歴史を読み解くキーワードがたくさん出てきます。今、一番気になるのが「WGIP」(War Guilt Information Program)です。皆さんも良かったらぜひこの言葉を調べてみて下さい。

●日本の歴史を知る朗読会参加者 HIROKO さんからの VOICE ●

□『戦争犯罪国はアメリカだった 英国人ジャーナリストが明かす東京裁判の虚妄』

ヘンリー・S・ストークス/ハート出版

「戦争犯罪国はアメリカだった！」なかなか目を引くタイトルです。大東亜戦争後の 1946 年 5 月に開かれた極東国際軍事裁判(東京裁判)でアメリカなどの連合国が戦争中の日本の指導者達を「戦争犯罪人」として裁きました。著者のヘンリー氏はこの戦争犯罪人が日本人ではなくアメリカだと言っているのです。■朗読会では「東條英機 歴史の証言」を読み進めていますが、そちらでもこの裁判は通常の裁判ではなく特殊な裁判だったと学びました。ヘンリーさんも同じく東京裁判は違法裁判であり無効、被告は全員無罪なのだと、この本で主張されています。■この東京裁判が裁判として無効だったのであれば「平和に対する罪」で絞首刑となった a 級戦犯とされた 7 人の方の死をどう捉えればよいのか、色々と思うところがありますし、今もその方たちが a 級戦犯(戦争犯罪人)と呼ばれている事にも疑問を持ってしまいます。■ヘンリー氏は日本が戦争犯罪を犯したかのように思い込まされているけれど、それは占領軍が「日本は戦争犯罪国家である」と日本人を洗脳したからだと言っています。メディアにも一切の批判をさせないように、戦前よりはるかに厳しい言論統制を行ったとも言っています。■私が学校で教わった内容とは異なることが多く、もし本当に東京裁判が違法裁判であったのなら、その事実は今の世の中にもっと浸透していなければならぬのではないのか、そして日本人の戦争に対する認識も大きく違ったのではないのか、終戦から 78 年経った今でも戦争に対する関心が高かったのではないのかと思ったのが正直なところでしょうか。■またこの本でヘンリー氏は、500 年に及ぶ白人による植民地政策によりどれだけ多くの有色人種が犠牲になったかということについても「白人キリスト教徒による世界侵略と有色人種大虐殺」で詳しく書かれていました。こちらにもなかなか衝撃的な内容でした。■1549 年キリスト教が日本に伝わり、1587 年秀吉がバテレン追放令、1612 年には禁教令が出ました。これらがなければ今の日本はどうなっていたのだろうと考えてみたりもしました。■歴史の授業は完全に受け身だった学生時代からうんと時間が空きましたが、ここでまた日本が歩んできた道について学ぶ機会を頂き大変嬉しく思いますし、若い頃とは違い大変興味深いです。島国の農耕民族だった先人たちが日本を他国の脅威から懸命に守ってくれたこと、欧米諸国に対抗するために富国強兵に努めてくれたことに私は感謝したいと思います。そしてこの国で私たちは今どう生きるのか、次の世代にどう繋いでいくのか、私自身にも大きく問われているような気がしてなりません。

●日本の歴史を知る朗読会参加者 MIYOKO さんからの VOICE ●

□『なぜアメリカは、対日戦争をしかけたのか』

加瀬 英明/ヘンリー・S・ストークス/祥伝社



私は学校で、日米戦争は日本が真珠湾を奇襲攻撃し始まった、無謀な戦争だと教わりました。多くの人がこのように学んだのではないのでしょうか。今回、石川塾の朗読会に参加し、違う見方がある事を知りました。そして、石川塾長からこの本を勧めていただきました。■アメリカは、日本が真珠湾攻撃をするかなり前から、日本と戦って、日本を屈服させ、日本を無力化することを決定していた、そうです。ルーズベルトは、日露戦争までは、日本に好意をいだいていたが、日本がロシアに勝つと、日本を新たな脅威とみなすようになりました。1940 年ドイツがヨーロッパ大陸を制覇。この時から、イギリスは孤立無援の戦いを強いられるようになりました。ルーズベルトはヒトラーが飽くなき征服欲に駆られており、イギリスが滅亡すればアメリカの滅亡をも招くと確信していました。そこで、アメリカはイギリスを救うために、ヨーロッパ戦争に参戦することを強く願いました。ところが中立法(アメリカが外国の戦争に介入しない外交政策。攻撃を受けた場合を除いてとルーズベルトは演説していた)が熱い壁となって立ち塞がりまし

た。そのために、日本にアメリカとの戦争を強いて、ヨーロッパの戦争に裏口から入ることを企てました。米英は協力して、日本に対して経済封鎖を行いました。日本に石油やゴムなどの天然資源の輸出することを禁じました。日本はなんとか外交で解決したかったが、そもそもアメリカは戦争を仕掛けてほしかったので、交渉にすらなりません。日本は自衛のために戦争をせざるえない状況まで追い込まれてしまったのです。■また、

人種差別も日米戦争の原因の1つでした。白人至上主義、キリスト教が絶対の考えのもと、有色人種の国々はほとんどが植民地化されていました。日本が日露戦争に勝ったことによって、有色人種がはじめて白人の大帝国を打ち負かし、西洋支配のもとにあったアジア・アフリカの諸民族が、闇の中で光を見ました。日本の勝利に促されて、アジアの各地で独立闘争ののろしがあがったそうです。アジア侵略と教えられた大東亜戦争も、植民地開放のきっかけとなったのではないかと書いてありました。■いかなる理由にせよ、戦争は決してするべきではないと思います。しかし、この本を読んで自分がいかに戦争や当時の世界情勢に無知であったかを知りました。歴史は見方を変えれば、色々な考え方があると思います。立場が変われば、解釈も違ってくると思います。日本は悪いことをしたというイメージの学校教育が真実なのか。子供に聞かれた時に、自分の意見をしっかりと話せるように、色々な本を読んでみたいと思いました。●日本の歴史を知る朗読会参加者 KYOMI さんからの VOICE ■

●「宿命の子 ～笹川一族の神話～」 高山文彦/小学館

本書は、競艇の創設に尽力し「日本のドン」の汚名を背負った故・笹川良一氏と、ハンセン病制圧を中心とした慈善事業を担う三男の笹川陽平・日本財団会長の、父と子の物語である。1899年に生まれた笹川良一氏は戦後、A級戦犯容疑者として巣鴨プリズンに収監。48年の釈放後、51年のモーターボート競走法制定に尽力、全国モーターボート競走会連合会、日本船舶振興会を設立し、会長に就任。暴走を始めた晩年の父を陰ながら支えた陽平氏は、父が特に心血を注いできたハンセン病制圧活動をライフワークに据えた。ジャングルの奥地など世界のあらゆる場所に自ら赴き、薬を届けて啓蒙活動に身を捧げる。数奇なる父子の人生を綴ったのが本書である。



目次

序章	解剖室で 6
第1章	私生児の空 29
第2章	A級戦犯容疑者 56
第3章	下男として生きて 83
第4章	父の家 125
第5章	巣鴨プリズン 140
第6章	天皇を守れ 184
第7章	ボートレース創始 230
第8章	嫡男になる 256

第9章	ハンセン病を制圧せよ 298
第10章	孤独な改革者 341
第11章	乱心と献身 387
第12章	お家騒動 423
第13章	巨魁秘録 478
第14章	新会長曾野綾子 514
第15章	国連決議への道 550
第16章	世界の表と裏で 574
第17章	東日本大震災 624
終章	長い旅の途上 655

第2章 A級戦犯容疑者 56

日米開戦の原因をつくったのは英米側のほうではないか、という考えが抜きがたく良一にはあり、戦争に勝ったからといって、勝った側が一方的に負けた側を裁くのは著しく公平さを欠き、国際法にも違反している、これでは東南アジアを植民地化していった英米側の責任問題は永久に蔽い隠されてしまう、と考えていた。日本が生存する道は、移民によって生産資源をつくるか貿易によって利益をうるかの2つしかない。しかるに、米国は排日移民法や対日禁輸を設けて日本を締め出した。これでは死ねということと同じである。このような政策をとらざるをえないように仕組んだのは、英米を中心とする連合国側ではないか。私は進んで公判廷に立ち、声を大にしてこの論陣を張るつもりである。1942年から衆議院議員をつとめてきたとはいえ、良一は当選1期目の新人代議士でしかなかった。国政を直接左右する立場にあったわけではない。首相の東條英機らとならんでA級戦犯にあげられるには、かなり見劣りがする。戦争犯罪にかかわる実績もほとんど見当たらないのだ。むしろ良一は、軍部支配の政權に牙を刺し、闘ってきた。彼が衆議院選挙に立候補したときの大政翼賛会総裁は、首相となった東條英機であった。大政翼賛会の推薦をうけられなかった候補者や推薦を拒否した候補者たちは、特高警察や憲兵による露骨な選挙妨害をうけて落選していくものが多かったが、良一は非推薦で立候補し、斎藤隆夫、鳩山一郎、尾崎行雄といった錚々たる非推薦候補とともに当選した。良一出された逮捕状は、A級戦犯容疑者としてであった。良一の逮捕理由とは、どのようなものだったのだろうか。立教大学教授の栗屋憲太郎によれば、それは民間諜報局(CIS)のファイルにあるつぎのような情報を根拠としているという。<笹川は、国粋大衆党を組織し、その総裁となり、同党は、日本の世界支配を唱える「八紘一宇」の精神のもと、侵略を鼓吹した。彼は、同党をひきいてワシントン軍縮条約の破棄、反英運動を推進し、天皇制に反対する動きを抑圧した。1939年には南京で傀儡政府の汪兆銘と取引し、さらに戦線視察のために飛行機でドイツ、イタリアを訪問。41年には、「南進運動」を強化するとともに、対中国強硬論を提唱し、反米英演説会のスポンサーになった。笹川は、戦前のもっとも行動的ファシストの組織者の一人であり、国粋大衆党のメンバーは多くのテロ事件にも関与した。敗戦後も超国家主義団体の全国勤労大衆党結成の黒幕となり、潤沢な資金にものをいわせて宣伝や組織のために金をバラまいている>「全国勤労大衆党」とは、国粋大衆党のメンバーがそのまま残ってつくられた「全国勤労者同盟」のことだ。「大衆」とは「勤労者」のことであり、良一は彼らのために階級差別の撤廃を訴え行動してきたので、この名前に変更になった。「黒幕」とファイルにはあるが、彼は巣鴨プリズンにみずから投獄されようとしている立場から、戦後再建された党には参加しなかった。栗屋憲太郎は、「CISは、以上の情

<<東條英機～余波～>>

報から、笹川の逮捕理由として、侵略と国家主義を推進し、米国への敵意を煽動した指導者だったこと、さらに敗戦後は民主主義を妨害するために活発に行動している点を指摘したのである」と述べている。

第5章 巣鴨プリズン 140

JR 池袋駅から真東の方向に、サンシャインシティがある。巣鴨プリズンがここにあったことを知る人は、いまではほとんどいなくなってしまうのではないだろうか。東條英機ら A 級戦犯 7 名をふくむ 60 名が、この地で処刑された。良一は、東條英機にたいして彼の入獄初日につきのように言い渡したことが述べられている。「元気を出して下さいよ。あなたの責任は重いんだから、陛下の運命さえもあなたの双肩に懸っていると言って好い位です。あなたは今日に臨んで、自分は何をすべきかを考え、その使命に向かって邁進すれば好いんです」東條は占領軍が私邸にやって来たとき、ピストル自殺を図ったが、心臓の急所をはずして死にきれなかった。自分自身が陸軍大臣のときにつくった「生きて虜囚の辱めをうけず」の戦陣訓に反する情けない行為との非難が、報道を通じて全国民のあいだにひろがっていた。良一はくあなたは全国民の非難と嘲笑の中に立っております。御家族がどんなに肩身狭く御暮しになっているかと想像すると、まことに御気の毒に存じます。而し法廷に於けるあなたの態度一つで御家族も満足されましょう。どうせあなたは死刑は免れません。死ぬる命であるとすれば一切の責任はあなたが引受けなさい。おそらくアメリカは陛下を法廷に引出す様な真似はしますまいが、共産党を音頭取りにして、世間のバカ者共が陛下をくぐれと騒いでおります。陛下の防壁たる者、それは今の日本にあなた一人しかない事を信じて下さい。そしてあなたの信念に従って、堂々と日本の立場を陳述して下さい、あなたが今度の戦争が、あく迄も自衛戦争と確信するならば、法廷のマイクを通じて全世界に叫んで下さい> 東條はたいてい黙って聞いていたが、体調もだいぶ回復してきたと見えるある日、「笹川さん、君の期待に添えると思いますよ」と返事をしてきた。証言台に立ち陳述を終えた東條は「笹川君、倅い陛下に御迷惑を及ぼさないですんだし証言台では僕は思う存分やった、言うべき事は全部言った、ただ遺憾なのは遠く歴史をさかのぼり、深く歴史を掘下げて語ることを許されなかった一事だ、だがそれは僕の責任ではない。とにかく僕は、あなたが公判廷の経験を微に入り細に亘って聞かしてくれたこと、最後迄僕を激励してくれた事が、どんなに大きな参考となり教訓となった事か、僕は衷心から感謝します、全くあなたの毅然たる態度は敬服の外ありません」と語ったという。

第7章 ボートレース創始 230

戦犯関係者の救援活動のほかに良一が打ち込んだのは、モーターボートレースを実現することだった。モーターボートレースの全国展開によって、日本船舶振興会(現在の日本財団)を設立し、毎年そこに売上金から 3.3 パーセントを還流させ、世界各地の恵まれない人びとにたいして支援活動をくりひろげていった。自由党、国民民主党、社会党の有志議員による共同提案として衆議院の運輸委員会に付託されたのが 1951 年 3 月、第 10 回国会であった。共産党を除く幅広い政党から 49 名の議員が提案者となったのは、矢次一夫の力が大きかったのかもしれない。モーターボート競走法案は 3 月 29 日、衆議院本会議で可決され、参議院に送られた。ところが、参議院の運輸委員会ではわずか 1 票差でかろうじて通過、本会議では賛成 65 票、反対 95 票大差で否決されてしまった。6 月 2 日のことである。憲法第 59 条にある、参議院で否決された法案は衆議院にさしもどすことができ、本会議で 3 分の 2 以上の賛成を得られれば可決、法律として成立するという。まだ一度も行使されたことがなかった。タブーを侵す蛮勇を良一が決意した背景には、1950 年 5 月、神奈川県逗子の海岸でおこなわれた戦後初の日米アマチュアボートレースの成功、同年 10 月に東京江戸川でおこなわれた第二回の日米対抗レースの成功があっただろう。モーターボート競走法案は、異例の展開を経て土壇場で可決、成立をみたのだった。法律が制定(1951 年 6 月)されてまもない 8 月には、全国にさがかけて長崎県モーターボート競走会が設立されている。長崎の大村市ではじめてレース会がひらかれたのは、翌年の 4 月 6 日で 3 日間の開催であった。「数千の観衆」(競艇沿革史)がつめかけてくれたおかげで、予想外の盛況となった。競い合うように三重でも滋賀でも大阪でも神奈川県でもぞくぞくと競走会が誕生したが、肝心の選手の養成にまったく手がつかない状態だった。良一は弟の春二に急いで選手育成をするよう命じた。琵琶湖でモーターボートレースを開催しようとするなかで、選手育成をしないでどうするのだと考えていた琵琶湖の佐藤与吉という滋賀県自転車競技振興会理事長のもとへ春二が訪問した。琵琶湖に選手養成所をつくりたい、責任者として陣頭指揮をふるってもらいたいと懇願され、8 月 25 日、大津市の湖南町の琵琶湖畔に国際モーターボート選手審判養成所を開設し佐藤与吉が所長に就任した。全国に 24 カ所生まれた地元自治体を施行主とするレース場は 1956 年ごろまでは赤字つづきで職員の給料すら払えない時期があった。「勝舟投票券の売上金の 100 分の 3 に相当する金額を国庫に納付しなければならない」と法律規定第 20 条に定められていたためだ。会長に就任した良一は財団法人日本船舶工業振興会を設立し、モーターボートレースの売上金を管理し、交付金を分配、公益事業の増進をはかるシステムの基礎をつくりあげた。政府や国会にはたらきかけて、1962 年 4 月にモーターボート競走法の改正を実現した。これによって「モーターボート競走業界は、恒久的(長期的)な事業として対策をたてることができるようになった」。もうひとつ、交付金の使途について「体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の振興」がふくまれた。これによって後年のハンセン病制圧活動などに貢献する道がひらけていった。(次号につづく)

<<石川塾長おススメの本>>



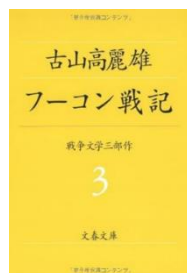
●「断作戦 ～戦争文学三部作 1～」 古山高麗雄/文春文庫

戦争文学の「幻の名作」として本篇ほど長く文庫化が待望された作品はない。中国雲南の玉碎戦から奇跡の生還をし、郷里で老いてゆく二人の兵士。戦争とは何か。そして国家とは? 答えられぬ問いを反復し、日々風化する記憶を紡ぎ、生と死のかたちを静謐に語る。この稀有な作家でなければ到達しえなかった清澄な文学世界である



●「龍陵会戦 ～戦争文学三部作 2～」 古山高麗雄/文春文庫

戦争は私から何を奪ったのだろう。軍隊に入り、私は屈辱を受けることに鈍感になり、たちまち誇りを失った。下級兵士は無意味な死を覚悟することに馴れ、それではあまりにみじめだから、お国のためだと自分に言いかせる。兵士は死シテ神トナルなどと本当に考えていたのか? 戦争を日常として生きた人間の貴重な文章である。



●「フーコン戦記 ～戦争文学三部作 3～」 古山高麗雄/文春文庫

「死の谷」を意味する北ビルマの広大な谷地フーコンで、日本軍はインパール戦に並ぶ必敗の愚かな戦いを演じた。片腕を失い生還した元兵士は、ながい平穏な戦後、老いを重ねる。問い、反復、忘却、諦念。記憶の年輪ともいべき稀有の文学世界。三部作の最終作であり、作家自身の遺書ともいべき名篇である。



●「軍艦^{やはぎ}「矢矧」海戦記 ～建築家・池田武邦の太平洋戦争～」

井川聡/光人社 NF 文庫

マリアナ沖海戦、レイテ沖海戦、沖縄海上特攻……新鋭軽巡の死闘!

昭和十八年九月、海軍兵学校卒業と同時に竣工直前の最新鋭軽巡「矢矧」に乗艦、太平洋戦争後半の三大海戦に参加し連合艦隊の最期を目撃した池田武邦。戦後、霞が関ビルなどの超高層ビルやハウステンボスの設計に活躍した半生を振り返り、「矢矧」沈没後の人生は余生一という建築家が封印を解いて語った戦争の記憶。



●「戦艦武蔵」 吉村昭/新潮文庫

日本帝国海軍の夢と野望を賭けた不沈の戦艦「武蔵」——膨大な人命と物資をただ浪費するために、人間が狂气的なエネルギーを注いだ戦争の本質とは何か? 非論理的“愚行”に驕進した“人間”の内部にひそむ奇怪さとはどういうものか? 本書は戦争の神話の象徴である「武蔵」の極秘の建造から壮絶な終焉までを克明に綴り、壮大な劇の全貌を明らかにした記録文学の大作である。



●「零式^{れいしき}戦闘機」 吉村昭/新潮文庫

昭和十五年=紀元二六〇〇年を記念し、その末尾の「〇」をとって、零式艦上戦闘機と命名され、ゼロ戦とも通称される精鋭機が誕生した。だが、当時の航空機概念を越えた画期的な戦闘機も、太平洋戦争の盛衰と軌を一にするように、外国機に対して性能の限界をみせてゆき……。機体開発から戦場での悲運までを、設計者、技師、操縦者の奮闘と哀歓とともに綴った記録文学の巨人編。

国語力をつけます

体験授業は 3 回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。
お問合せは…TEL042-710-5768 読み書き算数 石川塾

<<千の声 VOICE>>

口夫婦で行く「日本百名山」完登を目指して④ ～100 座目「空木岳(2864m)」～

【2023 年 10 月 1 日～3日】

昨年夏、コロナ禍で自粛残っていた百名山99座目奥穂高岳の登頂を果たした。残る百名山は中央アルプス空木岳である。中央アルプスは天竜川と木曽川に挟まれ南北に連なる木曽山脈の総称で空木岳はその中央山塊(北から木曽駒ヶ岳、中岳、宝剣岳、檜尾岳、空木岳、南駒ヶ岳、越百山)にある。昨年までコロナの為予約制であった地元山岳会が運営する頂上直下の駒峰ヒュッテ(自炊のみ)が今夏は土日祝日及び5人以上のパーティのみ予約が必要だが二人なら平日は予約無しで利用可となり昨年は平日でも予約が取れず断念したがその心配は無くなった。登ろうとしている空木岳池山尾根ルートは駒峰ヒュッテ(夏期管理人在中・標高 2,800m)と空木避難小屋(無人・標高 2,520m)のみで食事を提供する小屋は無い。コースタイム登り 7～8時間下り5～6時間、登山口からの標高差約 2,000mの空木岳は今の我々には少々厳しいが駒峰ヒュッテはシュラフ(寝袋)貸出しがあり装備を減らせる事が救いである。おそらく最後の本格登山でもあるので頂上小屋でゆっくり休み、雲海に沈む夕日や星空、翌朝のご来光と心ゆくまで山を楽しみたいと思った。(注:本文中に昨年とあるのは 2022 年のことである)

【10月1日(日)晴れ】

自宅発 13:20→(243km)→駒ヶ根 IC16:30→ペンションオズ 17:00～18:00→ホテルルートイン駒ヶ根インター 18:40



【ペンション OZ 手前石窯の煙突】

時ごろ着きご家族と再会、写真を渡したらとても喜んでくれ昔話しにひと時を忘れた。

【10 月 2 日(月)晴れ】

ホテル発 5:35→駒ヶ根スキー場駐車場 5:45～6:00→林道終点 7:20～7:35→池山小屋分岐 8:50～9:00→マセナギ 10:40→迷い尾根 12:30～12:50→空木平分岐 15:20～15:45→空木平避難小屋 16:10(泊)



【スキー駐車場登山口】

登山口(標高 930m)に最も近い駐車場最上部まで乗入れる。6:00 ポストに登山計画書を入れ出発する。最初は樹林の中緩やかな登りであるが、徐々に急な登りになり何度か林道を横切り林道終点(標高 1360 m)に着く。従来ここまで車で入る事が出来たが、落石、小崩落等で現在は一般車禁止となっている。ここまでの 1 時間半は今の我々にとっては余計なアルバイトである。林道終点は 20 台ほどの駐車場でトイレもあり一段上がった所には四阿があり眺望も良い、軽い食事をとり先に進む。道は明るいブナ林の中ゆっくりと高度を上げて行く。タカウチ場の標識(標高 1500m)を過ぎ、この尾根最後の水場を左に見てすぐに池山小屋分岐(1750m)に 8:50 着、道も緩やかな登りで歩きやすく概ねコースタイム通り来た。樹林帯の尾根道を進み 10:00 尻無し(標高 1930m)という標識がある平な広場に着く。登山口から 4 時間、1,000mを登って来た。時間的にも標高差的にも約半分といった所である。マセナギ(標高 1980m)という標識を 10:40 に過ぎると道は大きな木の根が露出し階段状となり崩落箇所には 6, 7段の木バシゴが 2 か所ほど続き、今までの道と様相が変わって来た。「この先急峻でヤセ尾根の為、転落・滑落事故が多発しています。十分注意して下さい」という注意看板を見る。この先から大地獄、小地獄と呼ばれるこのコース唯一の危険箇所が続く、岩混じりのヤセ尾根で階段、ワイヤー、鎖等よく整備されていてホールド、スタンスも十分に3点確保の基本を守って登れば問題ない。しかしながら我々のスタミナはそうはいかない、慎重になるが故に時間が掛かる、時間が掛かる故にスタミナを消耗する。大・小地獄を慎重に通過し迷い尾根標識(標高 2230m)に 12:30 着、行動食を取り 20 分程休む、コースタイムより約 1 時間遅れ、想定内ではあるが体力の消耗は容赦ない。次の標識ヨナ沢の頭(標高 2282m)を経て空木平分岐(標高 2540m)まで 1.5km約 2 時間、高低差 310m狭いヤセ尾根の急傾斜が続く要所には階段が設置されている。歩きながら考える「登山口を朝 6 時に出たから駒峰ヒュッテには午後 2 時頃、遅くても 3 時には着く。迷い尾根を出たのが 12:50、空木平分岐に着くのが 14:50、分岐から駒峰ヒュッテまでは 1 時間、今のペースからプラス 1 時間をみて

<<千の声 VOICE>>

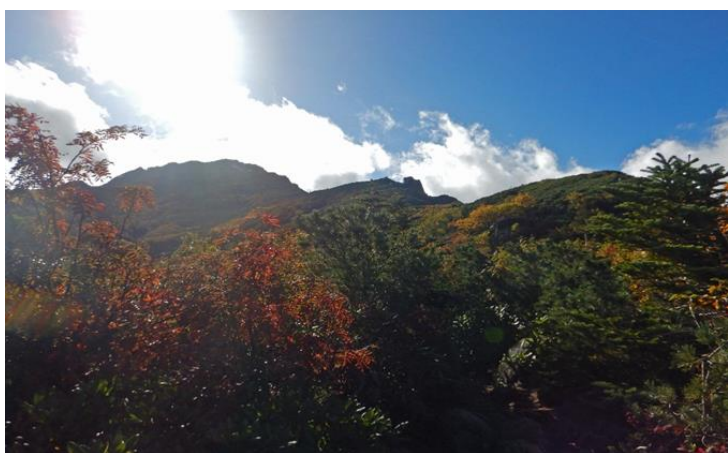
も 16:00 から遅くとも 17:00 頃までには着ける・・」と。だが現実には厳しくピッチは遅くなるばかりで空木平分岐着 15:20、歩き始めて 9 時間 20 分疲労感が二人を襲う。地図にはここから空木平避難小屋 15 分、駒峰ヒュッテ 1 時間 5 分とある、避難小屋で早く休養したいという思いが募るが単独の若い女性が休んでいて駒峰ヒュッテ泊りだと言う、それなら我々も頑張ると重い腰を上げ歩き始めた。「この上から展望が開け尾根道になる」とすれ違った下山者に聞いていた通り、すぐに低木帯となり赤く色づき始めた木々の上の青空の中に空木岳山頂と駒石が望める。5 分ほど登ってみたがやはり体力も気持ちも付いて来ず避難小屋で早く十分な休みを取り明日に備えた方が良く判断し分岐へ戻り空木平へ向かった。道は緩やかに下りではあるが灌木の枝が道を遮り歩き難い事この上ない、15 分のところ 30 分もかかり、16:10 分ようやく空木平避難小屋に到着した、10 時間 10 分よく歩いた。(次号に続く) ●79 歳 哲彦さんからの VOICE ■



【林道終点四阿】



【迷い尾根標識 左下滑落注意看板】



【空木平分岐上部より左空木岳と右駒石(カギ型)】

◎大学入試共通テスト♥国語の 24,060 字を読解する力

大人気♥石川塾名物要旨要約講座、いつからでも始められます。

●『理想の国語教科書』(齋藤孝/文藝春秋) ※青版/赤版/緑版
40 字程度に「～が～をする話」または「～が～になる話」にまとめる。

さらに本文をそのまま抜書きして 200 字でまとめる。

●『使える!「徒然草」』(齋藤孝/PHP 新書)

一編を 400 字詰原稿用紙 4～8 枚程度にまとめる。



◎個別作文・小論文指導 ～毎年合格者を出す石川塾の名物授業です～

高校受験、大学受験の推薦入試を利用する生徒に対し、個別に対策指導しています。

公立中高一貫校受験対策として、適性検査の作文指導もしています。

型を習得し、自身と向き合い自分の言葉で表現できるよう何度も練習します。

他と差をつける作文が書けるようになります♥

◎毎月♥第二 日曜に朗読会開催♥ (1/14、2/11、3/10、4/14、5/12、6/9、7/14)

●昨年 5 月から『東條英機歴史の証言 東京裁判宣誓供述書を読みとく』渡部昇一/祥伝社
昭和 23 年刊行後、GHQ により発禁処分とされた東京裁判における東條英機・宣誓供述書。その原文を全掲載、詳説。GHQ が封印した歴史の真実、そして日本人が知っておくべき本当の「昭和史」を紐解く。

●4 月から『閉された言語空間—占領軍の検閲と戦後日本』江藤淳/文藝春秋 を朗読予定

※朗読会は誰でも参加できます。石川塾までお問い合わせください。(☎042-710-5768)

※開催場所:石川塾/開催時間:10:00～11:30



□世界を通過中⑥ ～世界情勢が海運や日本に与える影響～

2023 年 11 月 19 日、日本の海運会社が運航する自動車専用船が紅海で拿捕されたこと、皆さんもニュースでご存じだと思います。これまで貨物船が乗っ取られる事件の多くはソマリア沖アデン湾周辺で小型ボートによる襲撃が多かったですが、今回は紅海でヘリコプターによる奇襲。ここまで組織的かつ万全な装備体制で襲われたら、丸腰の貨物船は全く太刀打ちできません。この件は 10 月 7 日から激化しているパレスチナのハマスとイスラエルの衝突を受けて、ハマスと同じイスラム組織であるフーシがイスラエルの関与する船を狙ったもので、その後もイスラエル系企業が関与するコンテナ船やケミカルタンカーが襲撃されたというニュースもあります。それに伴い、さまざまな海運会社はイスラエル関係船舶がある場合、紅海を通る航路から別のルートへ変更したり、イスラエルの関わりのない船にスワップするなどの対応に迫られているようです。

外航船を取り巻く環境は、世界中の関係者間が複雑に絡んでいます。今回の自動車運搬船を例にとっても、船主(オーナー)はイスラエル実業家が所有する英国企業。ポーランドの造船所で建造されたバハマ船籍の船で、竣工後の船舶管理を担うギリシャの企業が、ウクライナやフィリピンの船員を乗せて運航・整備をする船を、日本の海運会社がチャーターして荷物を運んでいました。ここまで書いていただいても 8 か国ほどの名前が挙がりましたが、それ以外にも建造費用に関わる銀行、荷主(船荷の持ち主)、船や荷物の保険を担う保険会社など、数多くの国の企業に関わっています。船だけでも数十億円、荷物まで入れると数百億円にもなる資産。1 隻の船だけみても様々な立場の人や企業が関係しています。

これまで、海賊頻発海域を通る際の対策としては、見張り員を多く配置して不審船の早期発見に努め、怪しい船には無線や光で警戒状況をアピール、万が一に備えて船の周りに有刺鉄線/鉄条網を設置したり、消火ホースで海水を放水しながら海賊が乗り込んでくるのを防いでいました。一時期、ソマリア沖で海賊が頻発した際には武装警備員を乗せて走ったり、ジブチに派遣されている自衛艦を含めた国際的な護衛船団による警戒の下でアデン湾航行する事もありました。ただ、そういった経緯もあって最近ではソマリア沖でも海賊事例の発生件数はかなり減っています。今回もある種の海賊行為とは言えるのかもしれませんが、政治色が非常に強く、組織的であり、これまでの海賊とは全く異質のものです。

海上輸送とは言え、船が経済的に通れる航路は多くはありません。例えば欧州や中東と日本を結ぶ航路を見ても、数多くの海峡があります。もしこれらを安全に航行することが出来なくなったら・・・輸出入の 99%を海上輸送が担っている日本にどう影響が出るか、皆さん容易に想像できると思います。記憶の新しい所では、2021 年 3 月に日本船主が絡んだ船がスエズ運河で座礁し、1 週間ほど運河が閉鎖されていたこともありました。そちらは事故でしたが、その間約 400 隻の船が通航再開を待っており、運河再開後も通常状態に復帰したのは 5 日ほど経ってからだったようです。最近のロシアとウクライナの件や中国による南シナ海への進出など、決して対岸の火事ではないのです。

2019 年からの新型コロナウイルスで一気に世界が分断されました。日本国内で 5 類感染症に変更されたのも今年 5 月ですが、既に世界は再び繋がりを取り戻しています。再び世界が分断される前に、どんなリスクがあるのか、どれだけの被害を許容できるのか、それぞれ考える機会なのかもしれないと思うこの頃です。

●機関長 HIRONOBU さんからの VOICE ■(※下の地図:左側のボルトガル・モロッコ間の海峡はジブラルタル海峡)



【欧州や中東と日本を結ぶ航路と様々な要所】

鎮守の森②～明治神宮遠足～俳句作り～

11月26日に明治神宮へ吟行(俳句づくり)遠足に行ってきました。大人4人子ども2人の6名で時雨の“鎮守の森”を歩きました。明治神宮御苑(入館料 500 円)を散策。緑から紅に変わるモミジのグラデーション、水面に映る色づいた木々、紫式部やカラスウリの実…見所いっぱいでした。子どもたちも目についた植物をよく観察し“俳句できた♥”と嬉しそうに声をあげていました。途中、塾長の鎮守の森の植生についてのお話や、質問タイムも…。腹の虫鳴き、かじかんだ手…甘酒と焼き芋が目にとまり昼食タイム。小石川植物園は断念し、参拝してから帰途につきました。境内の立派なご神木が物凄いエネルギーを発していました。

<11月26日>

鳥居前一礼してからケンケンパ (小2 さくら)
 どんぐりのじゅうたんみたい道ふさぐ (小2 さくら)
 鳥居過ぎ歩き出したら時雨ふる (小2 さくら)
 真っ赤な木奥には池広がって (小2 さくら)
 カラスウリ赤く実ってとどかない (小2 さくら)
 鳥居抜け明治の神域時雨の舞 (ミカ)
 もみじ舞う明治の森に癒される (ミカ)
 熊笹見ては故郷思いだす (ミカ)
 寒けれど清正の井戸温かい (ミカ)



<11月26日>



<12月1日>

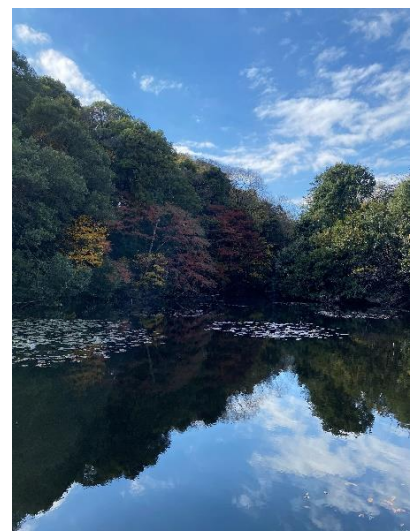


<11月26日>

大鳥居一礼してケンケンパ (小3 一二三)
 どんぐりがバリケードみたい道ふさぐ (小3 一二三)
 見てみると俳句がうかぶ夢の木だ (小3 一二三)
 大きな池コイの村だよ都会だよ (小3 一二三)
 焼き芋の中を見てみて真っ黄色 (小3 一二三)
 焼き芋を半分こしてくばったよ (小3 一二三)
 子らに焼き芋半分ずつもらふかな (植魚)
 茅葺の下肩寄せ歌を詠む (ミカ)

<12月1日>

高い樹々にひと小さく見ゆる此处 (植魚)
 モミジ散り枯枝に雲白く停まり (植魚)



◎次回の石川塾の遠足は3月に桜を見に明治神宮か小石川植物園に行きます。俳句に興味のある方、塾生・大人・お友達どなたでもご参加いただけます。お問い合わせは渡邊まで(☎042-710-5768)

◎ステップアップのための漢字・算数・数学検定◎

■学年に関係なくチャレンジできる▼

お申し込み時に過去問とチェック&リピート表をお渡しします▼●家でもどんどん勉強できるよう取り組み方は授業で伝授します▼●漢字検定は学年に関係なくどんどんチャレンジしよう▼●算数検定・数学検定は1学年・2学年上の級にチャレンジしよう▼●英検は各級に合わせて文法の基礎からしっかり指導▼大人の方の受検もサポートいたします▼●過去問とチェック&リピート表をお渡しします▼●検定料と施設費(@1500/月)で過去問のコピー無制限▼●

漢検3級以上取得すると高校入試で内申点が加点されます▼●

英検2級以上は大学推薦入試で加点▼●一般入試で入学試験免除もあり▼●

漢検の日程(石川塾)	数検の日程(石川塾)
2023/6/24/土曜 終了	2023/9/30/土曜 終了
2023/11/10/土曜 終了	2024/1/27/金曜
2024/1/20/土曜	2024/3/2/土曜



お申し込み・お問合せは石川塾まで☎電話 042-710-5768

※英検は石川塾では受験できません。本会場または最寄りの準会場を御紹介します。

□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●わが子と遊ぶ/わが子と歩む/わが子の歩み/わが子に学ぶ/鎌倉逗子葉山海浜を歩き土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月/家族友だち知人どなたでも参加できます/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいつばいの教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます■「町田 読み書き算数塾 石川ゼミ」検索■

●スタッフ・鈴木天羅からの VOICE●新年あけましておめでとうございます。去年の秋から石川塾の卒業生スタッフとして勤務しております、鈴木天羅と申します。水曜日か木曜日、あるいは両日に授業学習のサポート等を行っています。自身の経験を活かし、生徒一人一人に真摯に向き合うよう努めてまいります。また、日本の歴史を知る朗読会の音読と『日本の歴史』の要約も担当します。両者とも自分の知識・見方を大きく広げてくれ、楽しみながら参加させて頂いております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。■

●編集長・渡邊光樹からの VOICE●ダニエル・エヴァレットは次のような事件を目撃している。「われわれがピダハン族の男のインタビューをしていたとき、2歳ぐらいの幼児が、その男の背後にいて、刃渡り9インチ(22cm強)ほどの鋭利なキッチンナイフで遊んでいた。振り回すナイフの刃先が幼児の目や胸や腕など、怪我をしたらそれこそ大変なところをかすめていた。われわれが目にしたのは、その幼児のことではなく、幼児がナイフを落したときに、だれかと話し込んでいた幼児の母親がとった行動である。そのとき、母親は会話を中断することなく、無造作に落ちていたナイフを拾い上げ、幼児にそれを渡したのである。ナイフで手を切らないようにとか、怪我をしないようにとか、幼児に注意する人もひとりとしていなかった。」子どもの自由なふるまいがどこまで許容されるかはいくつかの要因によって異なる(第5章/P426)(「昨日までの世界 上 ~文明の源流と人類の未来~」ジャレド・ダイヤモンド/日経BPマーケティング)■

●編集兼発行人・石川剛からの VOICE●特集：“狩猟採集民の母親は授乳頻度が高い。/高学歴の西洋人の母親のなかには、授乳性無月経について耳にしたことがある人が多いが、頻回授乳をおこなわなければ効果がない、というところまで理解している人は少ない。最近、想定外の妊娠をしてしまい、うろたえて「授乳中は妊娠しないと思っていたのに！」と思わず叫んでしまった私の知人も、そんな現代女性のひとりだった。/狩猟採集民の子育ての習慣のなかには、いまのそのままの形で見習えるものも存在する。ベビーカーに赤ん坊を乗せて移動する際の赤ん坊の姿勢や顔の向きといったこと/狩猟採集民の子どもは、長い授乳期間のあいだ、そして何年も両親の近くで眠る幼児期のあいだ、つねに安心感と刺激を得ることができる。/狩猟採集民の育児は、大きな課題や危険に立ち向かう力と、生活を楽しめる心の持ち主を育てることのできる育児なのである。”(「第5章子育て」より)/上巻口絵参照■

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

□<2024年 新年号「千の声 VOICE」第21号>令和6年1月1日発行■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194-0021 町田市中町1-30-8 菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く■☎042-710-5768